



年生のほとんどは英語が好きですよ。でも何人かの子どもたちは、英語が好きではないと思っているかもしれません。少数ではあると思いますが。そのような子どもたちと、どのように向き合えば良いでしょうか。

エミリー 理科や算数など、どんな教科でも苦手な子どもはいます。そういう気持ちに対しては「完璧な英語でないといけない」というようなプレッシャーを取り除けるよう、もっとコミュニケーションを重視します。完璧でなくてもいいんです。例えば「I like cat.」と言った時に「I like cats.」と言わなかったからといって指摘してしまうと、その子は「出来ない、難しすぎる」と感じてしまうかもしれない。「I like cat.」と言った子どもに「Oh, me too! I like cats, too.」と答えたら、もっとポジティブに英語の学習をサポートできると思います。

市長 今の子どもたちは、外国の人と英語で気軽にコミュニケーションできますよね。コミュニケーションはとてもシンプルかつナチュラルで楽しいと教わっているから。英語を猛勉強するという感じではなくコミュニケーションできる。

エミリー そう、もっとカジュアルな感じですよ。

市長 私は12歳の時に英語の勉強を始めて、最初は書いたり聴いたりしてまず文法を理解しました。18歳の時に大学受験があり大学でも英語を勉強しましたが、スピーキングやリスニングのスキルを高める機会は少なかった。それが我々

の年代と今の子どもたちとの大きな違いです。
エミリー 私が小さかった頃と比べても、今はスピーキングが重視されています。今は世界とのつながり方が変わってきて、地球の裏側にいる人と話したり外国のテレビ番組やラジオ番組を聴いたりすることが簡単になりました。ゆっくり良い方向に変わってきていると思います。コミュニケーションが重視されるようになって暗記させることが少なくなってきました。

市長 市民の皆さんの中には「なぜ市長は英語を話せるのだろうか？英会話を練習する機会がなかったはずなのに」と思う人がいるかもしれません。実は43歳の時に外資系の銀行で働き始めて、その時から英語を話し始めました。

エミリー そうなんですか。

市長 日常生活の中で使うようになったことで英語を話せるようになりました。今の子どもたちはコミュニケーションするための学習ができてうらやましいですね。

エミリー 本当ですね(笑)。よく分かります。

市長 さて、7・8・9年生ですが、日本の中学生に英語を教えることについてどう感じていますか。

完璧を求める必要はない コミュニケーション重視

エミリー NEW HORIZONという教科書を使っているの

ですが、私はその教科書が大好きです。でも1つだけ好きでないのは、暗記がストレスになることです。会話の例文を暗記すること、例えば「駅はどこですか」「まっすぐ行って、左に曲がると見つかります」「ありがとう」「どういたしまして」という会話がありますが、実際にはそんなこと起きませんよね。

市長 ないですね(笑)。

エミリー でも、生徒はその会話を暗記しないといけない。8年生で始めたことがあって、会話をもっと個人的なものにしています。教科書の登場人物が欲しい物などではなくて、自分自身が欲しい物、行きたい場所、将来の夢について話してもらいます。そうすると生徒たちが興味を持つようになりました。

市長 中学校の英語では、形式的な文章ではなく日常的に使われる英語が大切なんですよ。例えば「This is a pen.」という有名な文があります。でもこの文使わないですよ。

エミリー 誰も使いません。見たら分かりますよね(笑)。

市長 「私のペンを使いませんか？」ならあり得ます。そういうことですよね。